

New Definition of Design

デザインの新定義

1991年に独立した東欧の国、ジョージアで活動するルームスは女性2人組のユニット。国内でデザイナーとして活動すると共に、ニューヨークやミラノでも精力的にエキシビションを開催している。地域性と現代性を兼ね備える作風が、着実に注目度を高めてきた。

東欧で見つめる自身の内面と世界

— 2人が一緒に活動した経緯を教えてください。

私達はトビリシ芸術アカデミーでインテリアデザインを学ぶ学生として出会い、友達になりました。卒業してから一緒に仕事するようになり、2007年にルームスを設立したのです。拠点はジョージアの首都トビリシで、インテリアとプロダクトのデザインを手掛けています。2人の間で役割は特に決めておらず、プロジェクトごとに担当や関わり方を変えています。

— ルームスはジョージアで初めてのプロダクトデザインスタジオだそうです。デザインに興味を持った理由は何ですか。

デザインやアート、建築への愛情は、私達が

子供の頃から何らかの形で持ち続けてきたものです。インテリアデザインを学ぼうと決めたのも、それがルームスへと自然に発展したのも、そんな環境が背景にあります。

— 「ライフ・オン・アース」シリーズのコーヒーテーブルについて説明してください。

私達は、地球上の生命を祝福するようなコレクションをつくりたいと考えていました。人々は、目新しいものや奇抜なものを探してばかりいるため、普段自分達を取り囲んでいるものに対して鈍感になっています。そこで、日常生活に潜む簡素な形態を描写し、まるで時間を止めるようにして、モニュメンタルなものとしたのです。必ずしも認識しなかったものに関して思いを巡らせ、幾何学的な要素と有機的な要素を融合させることで、このコレクションには私達の入り組んだ観察や心理状態が表現されました。同時に私達は、何世紀も前から物事の背後にあるものにも関心を持ちたいと思いました。なぜそれらは長い時間に耐え、まったく変わらないで在り続けるのか。永続性という概念は、このコレクション全体に繰り返し見られ

Vol. 88

Rooms

ルームス



ジョージアのトビリシ芸術アカデミーを卒業したケティ・トロライアとナタ・ヤンベリゼが2007年に設立。ジョージア国内でホテルや商業施設のインテリアを手掛ける他、プロダクトはニューヨークやロンドンなどの先鋭的なデザインショップが扱う。18年はイタリアのCCタピスからラグを発表した(ポートレート撮影/Mattia Iotti)

るモチーフです。コーヒーテーブルは、ジョージアのカマラ・ストーンとのコラボレーションで制作されました。

— 現在、特に注目している素材や技術などがありますか。

石や木、真鍮、ガラスといった最もベーシックな素材や自然由来の素材を使おうと試みています。私達にとって大切なのは雰囲気をつくることで、そこに最も配慮します。作品の中に歴史的な要素と現代的な要素が共存することがありますが、それらに調和したコントラストを見出すのが重要であり、そのバランスは私達独自のものです。

— ジョージアのデザインシーンについて教えてください。

現在はとても活気があります。デザインとアートのシーンはまさに拡大しようとしているところで、そんなムーブメントに立ち会いながら今ここにいられることに、大いにインスパイアされます。ジョージアを拠点とすることには、世界の中で存在がスルーされたり、デザインシーンでの出来事やトレンドと距離があるという欠点もあります。しかしそれらもまた、アドバンテージとして生かしたいと思います。この環境によって、私達はより内面的になります。だからこそ自分達の内側にフォーカスし、それをデザインへと翻訳したいのです。

— 尊敬するデザイナーやアーティストを教えてください。

あまりにたくさんいますが、いくつか名前を挙げるならドナルド・ジャッド、エットレ・ソットサス、ル・コルビュジエ、ジオ・ポンティです。— 今後、どんなプロジェクトに取り組みたいですか。

メーカーと組むよりも、異なる領域のアーティストとコラボレーションしたい。彼らと異なるプロセスを共有するのが楽しみだからです。将来的にデザインしてみたいものは、ルームスというものを完璧に表現する空間。つまりクライアントによる制約をまったく受けたくないものです。



プロダクトシリーズ「Life on Earth(ライフ・オン・アース)」はジョージアで採れる天然石ホームストーンを使用。2018年4月にミラノで発表された(撮影/Guram Kapanadze)